
小さな君へのバースデーソング

タイガ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小さな君へのバースデーソング

【Nコード】

N3722B

【作者名】

タイガ

【あらすじ】

妻と子と離れ、苦悩に揺れる主人公がいかにしてこの複雑で矛盾だらけの現在を乗り越えるのか。裏切り、裏切られの過去を振り返り本当の家族愛とは何かを問う、ノン綺麗事ヒューマンストーリー。

第1話 青い春

それは何とも言いよぶの無い感情で、まるで真つ暗闇を何の頼りも無くさ迷っているような・・・そんな感情がこの3ヶ月常に続いている。

原因は分かっている。

一年半前に離婚した元妻、奈津美のおかげだ。

とは言っても、彼女に100%責任があるわけではない。いや、90%以上僕のせいなのかもしれない。

とにかく、この複雑な情況は彼女を裏切った罰なのだと自分に言い聞かせる事でしか治まらないのだろう。

奈津美に初めて出会ったのは中学2年生の頃だ。

彼女は転入生で、まあこう言っちゃあなんだが・・・普通の大人しい娘だった。

僕等の中学校は都会でもなく、田舎でもない、是も否もない中学校だ。

校舎の直ぐ横を都心へ向かう線路が通っていて、時たま通る電車の音が僕は何となく好きだった。

（今となってはきつとうるさいとしか感じられないだろうけど・・・）

そんな普通の中学に転入してきた普通の奈津美を対して意識もせず、話すことも無く、アツと言う間に3年生になった。

奈津美とどうして友達になつたかは正直覚えていない。

多分、男女入り交じつた10人前後の友達グループにいつの間にか自分も奈津美も加わっていて自然と話すようになっていったのだろう。

そして、その頃には奈津美は何人からも告白されるような“モテる”女の子になっていた。

「俺、あいつの事・・・好きなんだ。」

グループの中でさえ2人も3人もそんな話が飛び交っていた。例外なく僕も恋に落ちていた。

容姿だけではなく奈津美には何か特別な魅力があった。

フェロモンポンポンとかではなく、微笑みかたや喋り方に男を引き付ける何かがあった。

（そのせいで後にエライ苦労をすることになるのだが・・・）
ましてや中学生なんてお子様もいいところ、コロッとやられてしまうのだ。

そして念願叶つてか、卒業も間近のある日の夜に告白し、寒空の下可愛いキスをくれたのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3722b/>

小さな君へのバースデーソング

2010年11月7日08時03分発行